

スーパーマーケット景気動向調査

2018年6月調査結果（5月実績）
（2018年6月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに2か月連続で一段の悪化

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-2.0の41.6、見通し判断は前月から-2.1の39.8となり、どちらも2か月連続で一段の悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-17.7、収益DIは-10.3と共に2か月連続の二桁のマイナスとなった。食品仕入原価DIと生鮮仕入原価DIはわずかなプラスではあるが、販売価格DI-2.1、客単価DI-0.1とマイナス圏で低迷した。加えて来客数DIが-18.6と二桁のマイナスが続いており、すべてのDIが弱含みの状況となっている。

カテゴリ動向調査では、相場が低下した青果DIが-14.5、やや改善傾向もみられたものの水産DIが-14.0と大きく低迷した。来客数減や前年に比べて低下した気温によりすべてのカテゴリでDIがマイナスとなった。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、店舗周辺地域景気動向DIのみ比較的高水準を維持しているものの、他のDIはすべて悪化が継続しており、スーパーマーケットにおけるマインドの悪化が顕著となっている。

前月に続き、競争環境が厳しさを増すなかで来客数の低迷が長期化しており、生鮮相場の安定で客単価の低下も見られるようになってきている。他業態の参入が続く食品市場では価格競争が激しく、厳しい経営環境が続いている。業界の競争優位性を再確認し、来客数減に歯止めかけ、客単価上昇へのきっかけを見出す施策に期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI

当月：41.6 (-2.0)
前月：43.6

消費者購買意欲DI

当月：42.0 (-1.1)
前月：43.1

周辺地域 競合状況DI

当月：39.8 (+0.1)
前月：39.7

店舗周辺地域 景気判断DI

当月：45.7 (-0.6)
前月：46.3

見通し判断

景気判断DI

当月：39.8 (-2.1)
前月：41.9

消費者購買意欲DI

当月：42.0 (-1.8)
前月：43.8

周辺地域 競合状況DI

当月：38.2 (+0.3)
前月：37.9

店舗周辺地域 景気判断DI

当月：45.0 (-1.4)
前月：46.4

経営動向調査 経営状況

売上高DI

当月：-17.7 (-2.6)
前月：-15.1

客単価DI

当月：-0.1 (+2.5)
前月：-2.6

来客数DI

当月：-18.6 (-2.3)
前月：-16.3

収益DI

当月：-10.3 (-0.8)
前月：-9.5

販売価格DI

当月：-2.1 (-0.5)
前月：-1.6

生鮮品仕入原価DI

当月：1.0 (+2.3)
前月：-1.3

食品仕入原価DI

当月：2.9 (-0.4)
前月：3.3

カテゴリ動向

青果DI

当月：-14.5 (-1.1)
前月：-13.4

水産DI

当月：-14.0 (+5.5)
前月：-19.5

畜産DI

当月：-2.5 (-1.5)
前月：-1.0

惣菜DI

当月：-3.9 (±0)
前月：-3.9

日配DI

当月：-9.0 (-1.9)
前月：-7.1

一般食品DI

当月：-10.3 (-0.5)
前月：-9.8

非食品DI

当月：-13.8 (-2.6)
前月：-11.2

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

6月調査（5月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

5ヵ月連続低下となり、二桁マイナス水準で低迷が続く

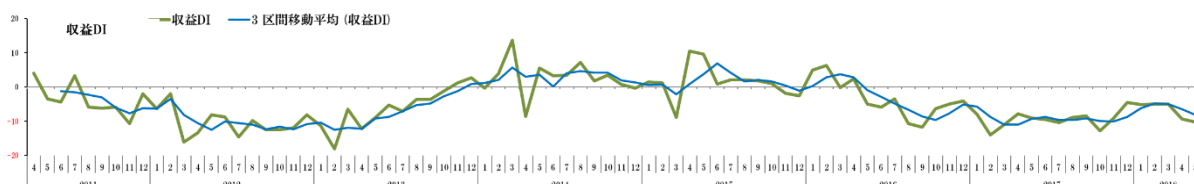
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	13.3	48.8	24.1	12.8	1.0	-15.1
売上高（当月）	16.5	47.8	26.4	8.8	0.5	-17.7



2. 収益DI

小幅な低下傾向続く

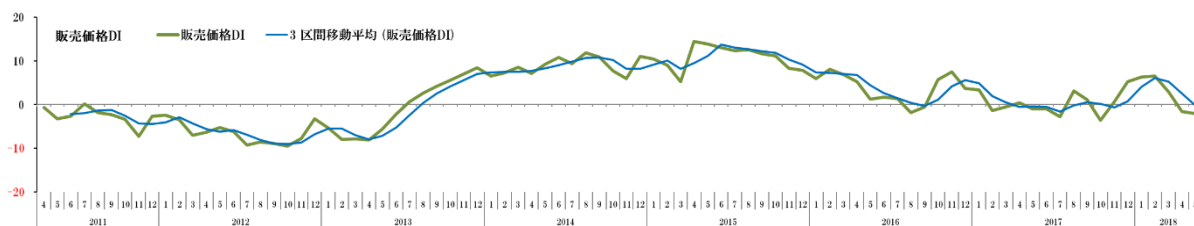
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.5	42.3	28.4	16.4	3.5	-9.5
収益（当月）	9.6	40.7	32.2	16.4	1.1	-10.3



3. 販売価格DI

マイナス圏での推移も大きな変化はなし

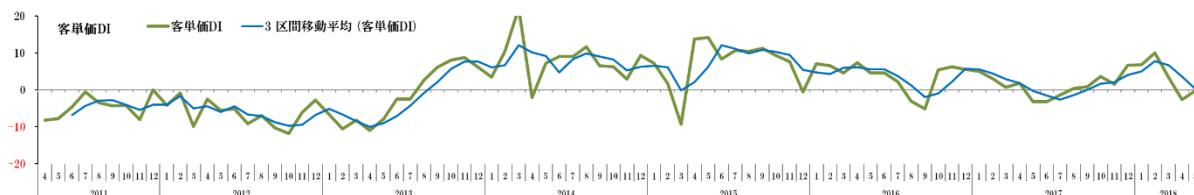
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.5	19.4	66.7	12.9	0.5	-1.6
販売価格（当月）	0.0	20.0	68.3	11.7	0.0	-2.1



4. 客単価DI

わずかに上昇し、マイナス幅を縮小

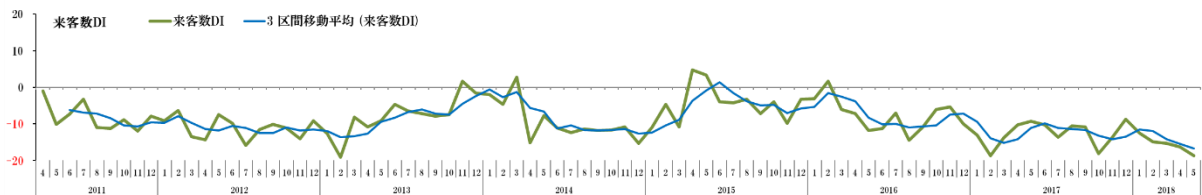
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.5	29.1	47.8	21.7	0.0	-2.6
客単価（当月）	1.7	23.9	47.8	26.7	0.0	-0.1



5. 来客数 DI

二桁マイナス水準が継続し低迷

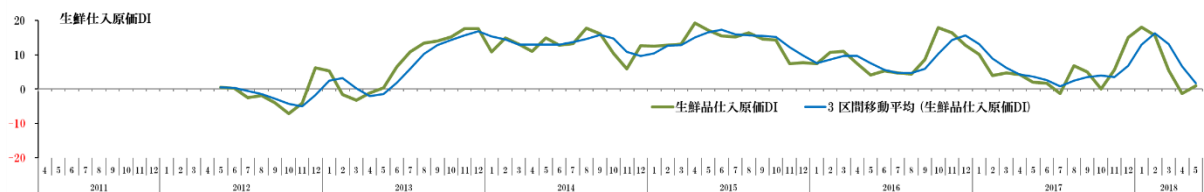
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.5	53.5	24.0	10.5	0.5	-16.3
来客数 (当月)	14.4	50.6	30.0	5.0	0.0	-18.6



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかに上昇しプラス圏に

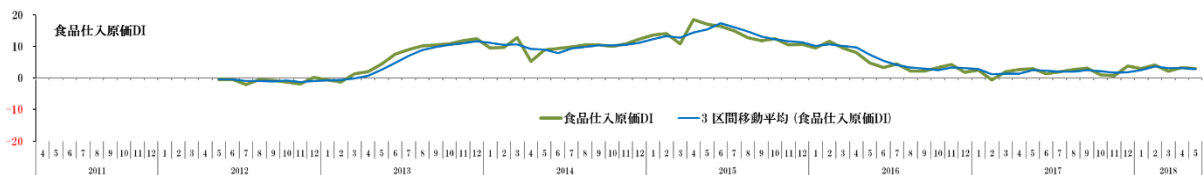
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	4.1	19.8	54.3	20.8	1.0	-1.3
生鮮仕入原価 (当月)	1.1	19.7	55.1	22.5	1.7	1.0



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス圏での横ばい推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.5	6.0	66.0	23.0	1.5	3.3
食品仕入原価 (当月)	1.7	10.1	63.7	24.0	0.6	2.9

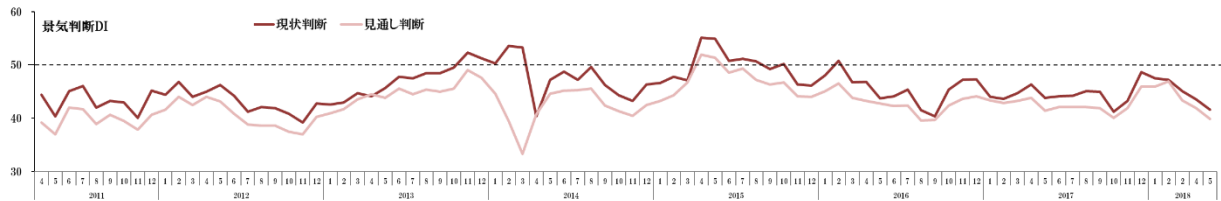


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に前月に続き一段悪化

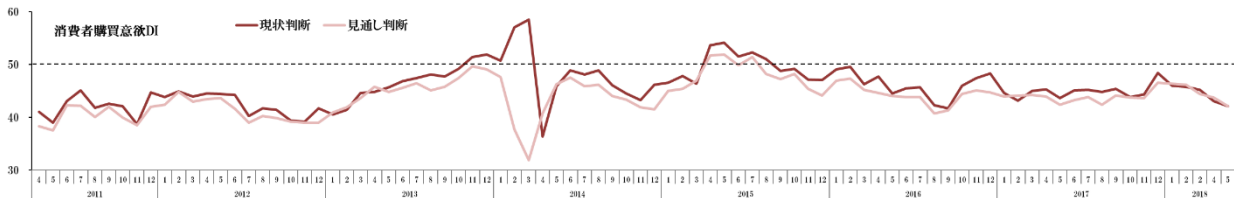
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.0	31.7	59.9	6.9	0.5	43.6
【現状】景気判断 (当月)	3.8	29.7	62.6	3.8	0.0	41.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.5	33.8	57.2	6.5	0.0	41.9
【見通し】景気判断 (当月)	4.4	35.7	56.0	3.8	0.0	39.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月に続き一段悪化

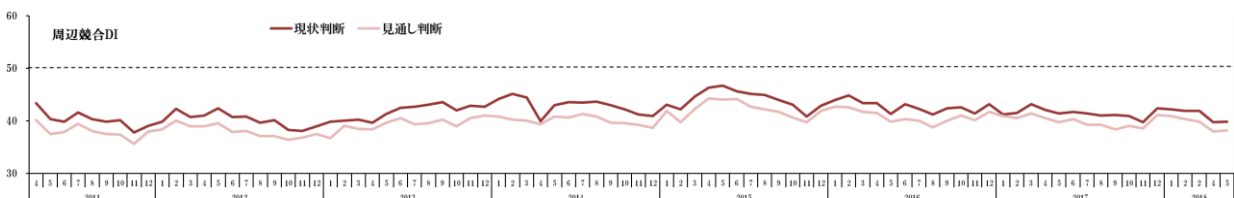
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	31.2	63.9	4.5	0.0	43.1
【現状】購買意欲 (当月)	1.1	32.4	63.7	2.7	0.0	42.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	28.9	66.2	4.0	0.5	43.8
【見通し】購買意欲 (当月)	1.1	31.9	64.8	2.2	0.0	42.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に低位横ばい推移が続く

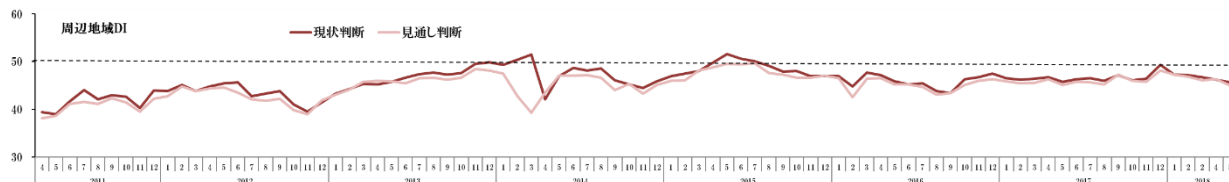
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.5	33.2	61.4	1.0	0.0	39.7
【現状】競合状況 (当月)	4.4	34.1	59.3	2.2	0.0	39.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.5	36.3	56.2	1.0	0.0	37.9
【見通し】競合状況 (当月)	7.1	33.5	58.8	0.5	0.0	38.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

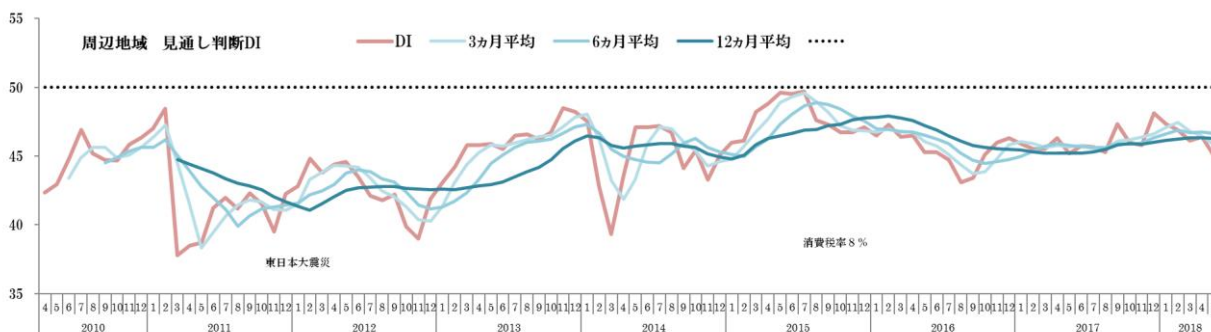
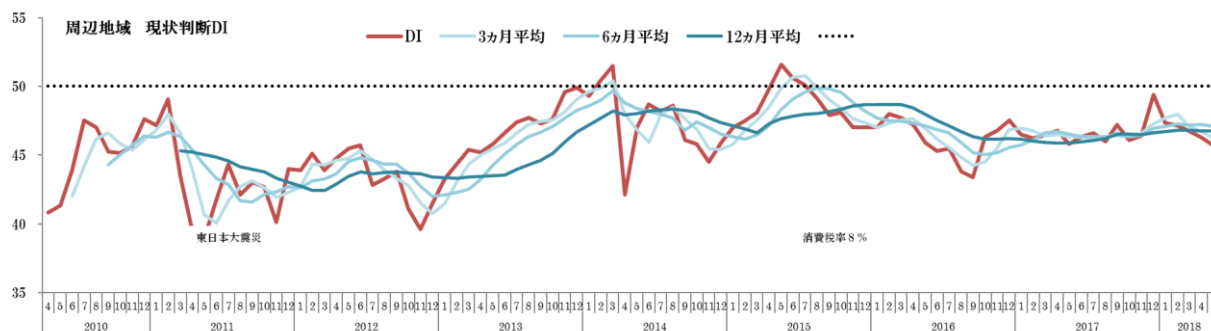
小幅に悪化も他の景気判断に比べ高水準は維持

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	17.4	80.1	2.5	0.0	46.3
【現状】地域景気 (当月)	1.1	16.1	81.7	1.1	0.0	45.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	18.0	78.5	3.5	0.0	46.4
【見通し】地域景気 (当月)	1.1	18.3	80.0	0.6	0.0	45.0



※長期傾向 (2010年4月～)

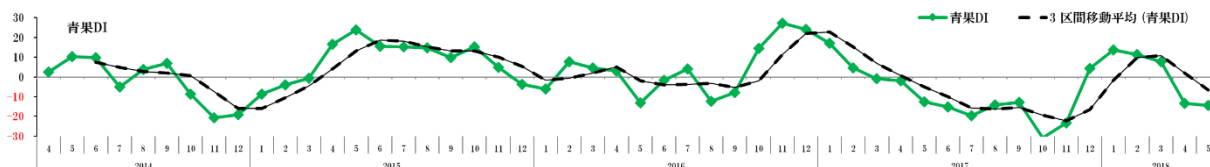
11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化傾向が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-14.5（不調）

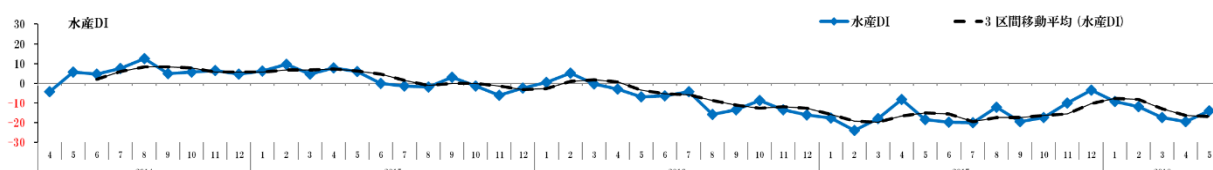
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	16.0	41.2	24.7	16.5	1.5	-13.4
青果（当月）	13.9	45.1	26.6	13.9	0.6	-14.5



野菜相場が前年より下落しており、販売点数増加に向けて取り組みを強化したものの、不調となった。なかでもジャガイモや玉ねぎは下落幅が大きく影響を受けた。気温上昇によりトマトなどのサラダ商材の動きはよかった。果物類ではカットスイカやメロンが好調な一方で柑橘類が不調であった。輸入果物ではキウイフルーツやバナナを好調にあげる店舗が多かった。

2. 水産DI：-14.0（不調）

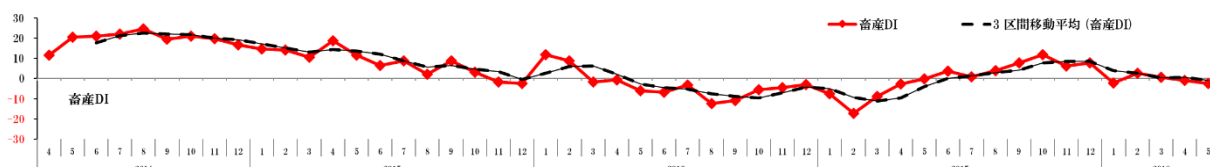
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	17.5	52.1	22.2	7.2	1.0	-19.5
水産（当月）	13.9	43.4	30.6	9.2	2.9	-14.0



未だ入荷不足や相場の高騰が続いているが、一部で水揚げ量の回復がみられる魚種もあり、売上が回復しつつある店舗もみられた。一方で、カツオは例年より多いアニサキスの影響を考慮して、保健所の指導が強化されていることもあり、積極的に販売できず、冷凍やタタキに切り替える店舗もみられた。前年好調だったうなぎは、今年相場が高騰しており苦戦している。アニサキス報道から1年が経過したことで刺身類は前年比で好調となった店舗もみられた。

3. 畜産DI：-2.5（やや不調）

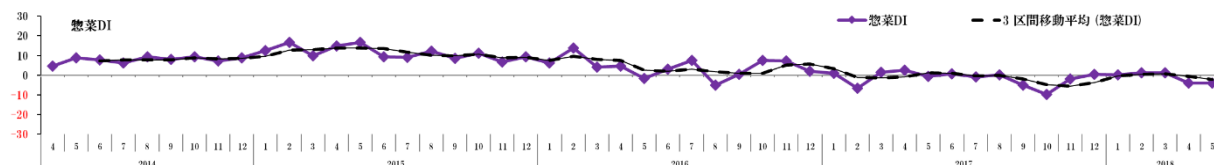
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.2	27.8	38.7	22.7	5.7	-1.0
畜産（当月）	5.8	29.8	38.0	21.1	5.3	-2.5



GW 期間は高単価のステーキや焼肉用牛肉が好調となった店舗もあったが、気温の低下により伸び悩んだ地域もあった。やや相場の上昇している豚肉は豚しゃぶ用を中心に好調とする店舗が多い。鶏肉はサラダチキンが好調を維持しているものの、単価が下落しており伸び悩んだ。ハムやソーセージなどの加工肉は不調とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：-3.9（やや不調）

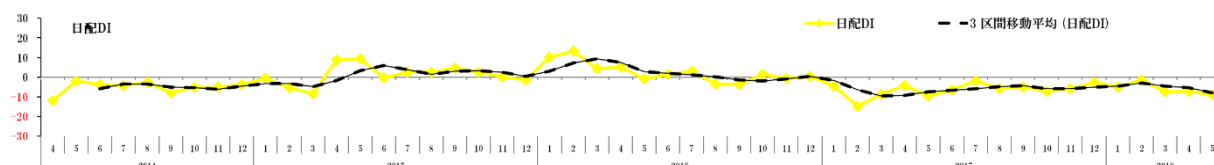
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	33.2	40.0	19.5	3.2	-3.9
惣菜（当月）	4.7	30.4	43.9	18.1	2.9	-3.9



月の前半は伸び悩んだものの、気温の上昇により米飯類や涼味惣菜（麺類）、おつまみ商材の動きがよかった。一方で揚げ物は苦戦した。旬の食材使った天ぷらは引き続き好調となった。アニサキス報道から1年が経過したことで寿司類は持ち直しをみせた店舗もみられた。作り立てや店内加工惣菜が好調とする店舗がある一方で、人手不足で十分に製造に対応できない店舗もみられた。

5. 日配DI：-9.0（やや不調）

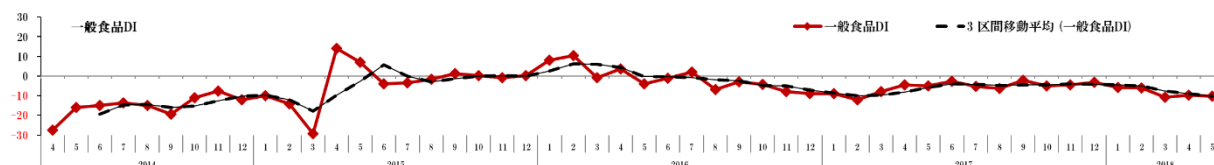
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.7	36.3	36.8	19.2	1.0	-7.1
日配（当月）	7.0	37.2	43.0	10.5	2.3	-9.0



前年比較で気温が低くなった地域では、アイス、飲料など涼味系商品の動きが悪かった。報道により特需となっている納豆は単価も上昇しており、引き続き好調となった。昨年不調だったパン類は好調とする店舗が多い。牛乳やヨーグルトなどの乳製品は好不調まちまちの判断となっている。総じて前年との気温差により地域によって好不調の категорияが異なる状況となっている。

6. 一般食品：-10.3（不調）

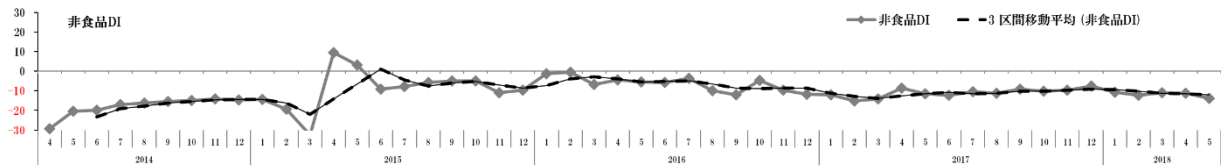
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.8	36.6	40.2	13.9	0.5	-9.8
一般食品（当月）	6.3	40.8	42.0	9.8	1.1	-10.3



日配カテゴリーと同様に地域により前年との気温差で好不調の категорияが異なる結果となった。前年より気温が低下した地域では、飲料や涼味関連商材の動きが悪かった。ビールは前年駆け込み需要の反動減が大きかった。米類は単価が上昇しており引き続き好調が続いている。品不足で特需のあったスナック類にも反動減がみられた。調理酢やオリーブオイルが好調なった店舗もみられた。

7. 非食品 DI：-13.8（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.7	36.7	38.3	11.2	2.1	-11.2
非食品（当月）	15.5	36.9	38.1	6.5	3.0	-13.8



前年との気温差により、夏物商材が不振となったほか、特売商品の一部に動きがよいものもあるが、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどの価格競争の影響を大きく、全体的に伸び悩みをみせた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2018年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 競合状況（来客数減・価格競争）
2. ビール類反動減
3. 月前半（GW期間）の気候（悪天候・気温低下）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 182社
 4月実績確報版 203社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp